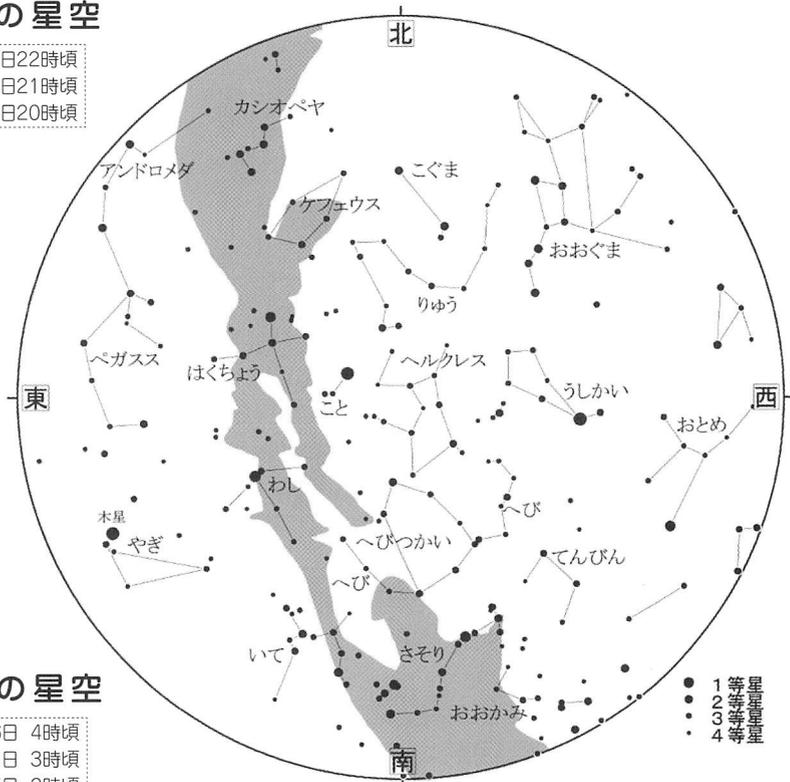




★星空ガイド 7月16日～8月15日

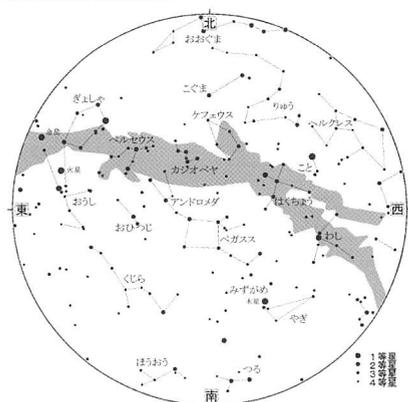
よいの星空

7月16日22時頃
8月1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

7月16日 4時頃
8月1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

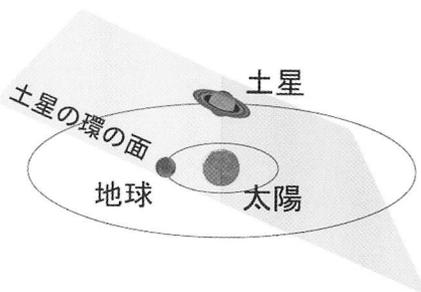
月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
7	16	木	4:56	19:11	23:44	13:06	23.3
	21	火	4:59	19:08	3:31	18:28	28.3
	26	日	5:03	19:05	9:35	21:29	4.0
8	1	土	5:07	19:00	15:44	0:29	10.0
	6	木	5:11	18:55	18:59	5:05	15.0
	11	火	5:15	18:50	21:12	9:54	20.0
	15	土	5:18	18:46	--:--	14:14	24.0

※惑星は2009年8月1日の位置です。

<土星の環の消失>

今月の天文現象の最大イベント皆既日食については、3ページより説明していますので、ここではそれ以外の現象を解説しましょう。

8月10日は、土星の環の消失という現象が起こります。土星といえばその環に特徴がありますが、この日には環が全く見えなくなってしまう。土星の環は、直径は地球の大きさの20倍ぐらいある



土星の環の消失

のに対し、厚さは大変薄く、数十m程度と考えられています。このため土星の環は、真横になるとどんなに大きな望遠鏡を使っても見えなくなってしまう。

土星の環が見えなくなるのは、2通りのパターンがあります。一つは地球から見てちょうど環が真横に来るときですが、もう一つ太陽の光がちょうど真横から照らす時も、見えなくなってしまう。8月10日は、この太陽の光がちょうど真横から照らす日にあたります。

<ペルセウス座流星群が極大>

今年もペルセウス座流星群の季節がやってきました。今年は8月13日の明け方、ペルセウス座流星群が極大となります。この日には、普段よりも多くの流れ星を見ることができます。ただし12日午後10時過ぎには下弦前の月が昇ってくるため、条件はあまり良くありませんが、明るいものが多いので、うまくいけば1時間に20~30個程度の流れ星が見えると考えられます。流れ星の見ごろの時間は、ペルセウス座が空高く昇る深夜から、空が明るくなる13日午前4時頃までとなります。

流れ星はペルセウス座に限らず空全体に見えますので、どちらを向いて観測してもかまいません。楽な姿勢で、空全体を見渡して観測しましょう。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
7	19	日	土用の入
	22	水	●新月(12時)/皆既日食(トカラ列島でみられる)/月が今年最近(357463km)
	23	木	大暑
	29	水	⊙上弦(7時)
	30	木	このころ、みずがめ座δ流星群極大

月	日	曜	主な天文現象など
8	4	火	月が最遠
	6	木	○満月(10時)/半影月食
	7	金	立秋
	10	月	土星の輪が真横になる
	13	木	ペルセウス座流星群極大(0時)
	14	金	⊙下弦(4時)
	15	土	木星が衝

江越 航(科学館学芸員)